図 1

奈良県における希少野生動植物の保護施策のあり方に関する提言
体　系　図

野生動植物の現状
県内での全生息確認種数：434種
希少性を観点にした
カテゴリー掲載種数：158種
（36%）

要因分析

減少の要因
第1の要因：開発や乱獲など人間活動に伴う破壊
（1）生息・生育地の破壊、改変
（2）過剰な捕獲採取
（3）生息・生育地の限定
第2の要因：里地里山などへの人間の働きかけの減少
（1）里地里山の荒廃、植生の遷移
第3の要因：外来種や化学物質などの影響
（1）生息・生育環境の汚染
（2）外来種との競争等

奈良県版レッドデータブック脊椎動物編による

整理検討

第1の要因に対する課題（保護目標）
生息・生育地の保全
過剰な捕獲採取の規制
生息・生育地外での保存
保護生息・生育地の復元
第2の要因に対する課題（保護目標）
自然環境の持続的利用
多様な森林環境の整備
第3の要因に対する課題（保護目標）
生息・生育環境の保全
外来種の防除

＋

県民の自然保護意識に関する現状

推進体制に関する現状

再整理

課題
生息・生育地の保全
過剰な捕獲採取の規制
生息・生育地外での保存
生息・生育地の復元
自然環境の持続的利用
多様な森林環境の整備
生息・生育環境の保全
外来種の防除

県民等への普及啓発、
認識共有、そして協働

推進体制の整備

保護対策の基本的考え方

1）調査研究の推進
2）保護制度の創設
3）保護及び復元施策の実施
4）外来種の防除
5）開発及び整備等に伴う影響の回避や低減
6）県民への普及啓発
7）県民との協働による保護活
8）推進体制の整備
対応窓口の明確化、一元化
県庁内の連携体制の構築　等

今後の取り組み方針

緊急性、必要性、あるいは実現可能性を考慮して優先度を整理
いわゆる“奈良県”を構成する県、市町村、県民、事業者の役割を提示
↓
それぞれの主体による、着実かつ段階的な行動

保護目標の達成